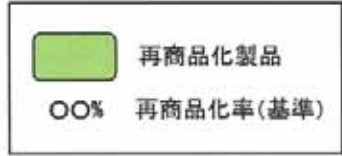
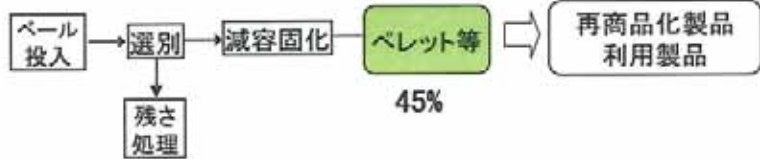


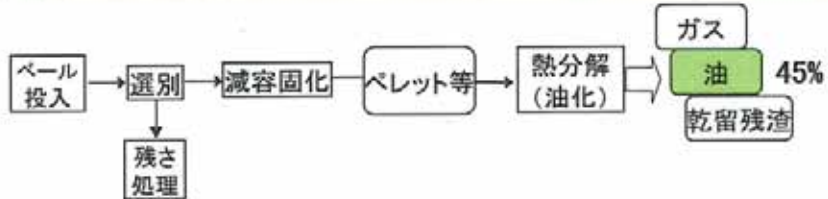
1. 検討対象:各再商品化手法と再商品化製品



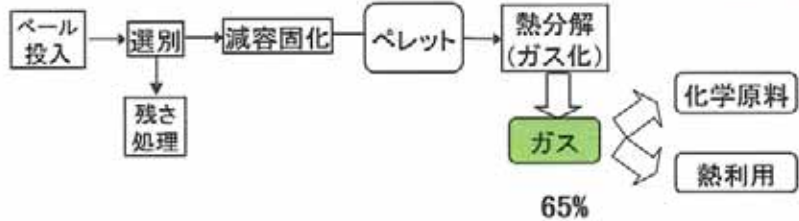
材料リサイクル



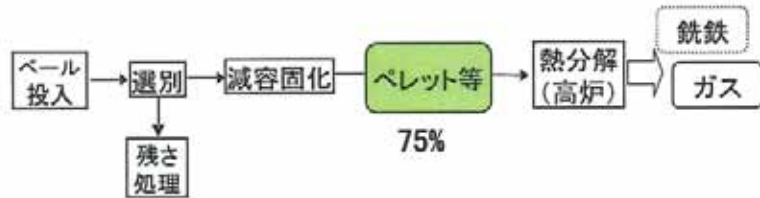
油化



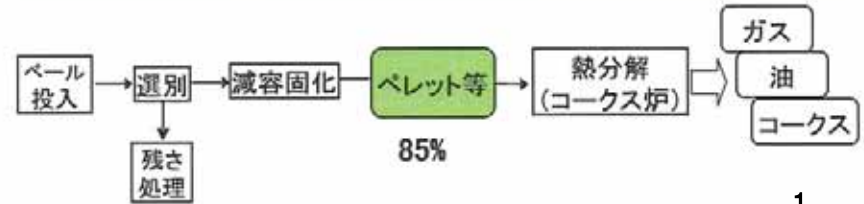
ガス化



高炉還元剤化



コークス炉化学原料化

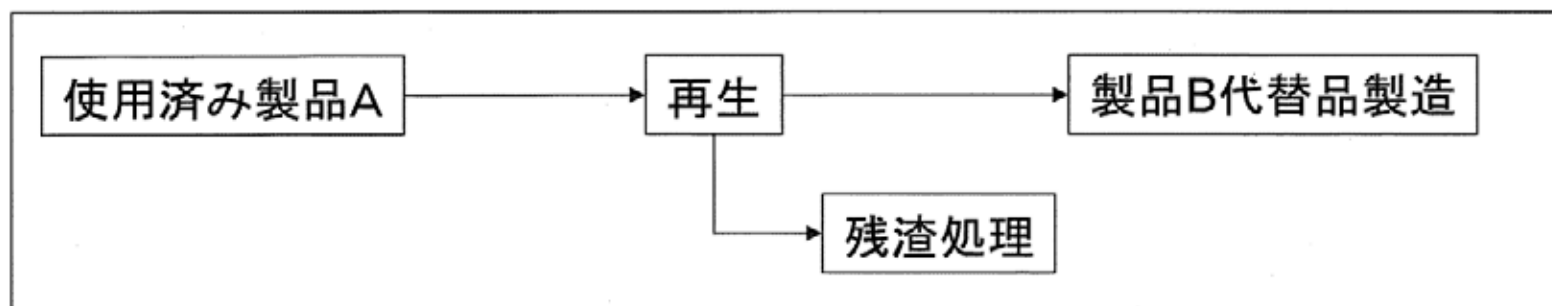


2. 環境負荷評価の方法

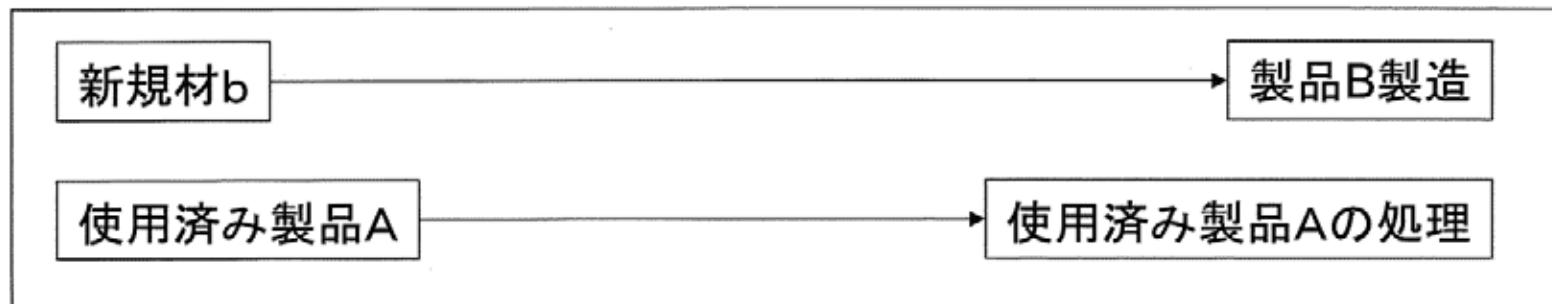
2-1. リサイクルの効果

同等の製品を再生品から作る場合と新規原材料(新規材)から作る場合を比べ、「リサイクルの効果」を評価する。なお、使用済み製品Aはケース②においても発生し、処理を実施するとして評価する必要がある。

ケース①:リサイクルによる製品の製造(再生)(以下、リサイクルと記す)

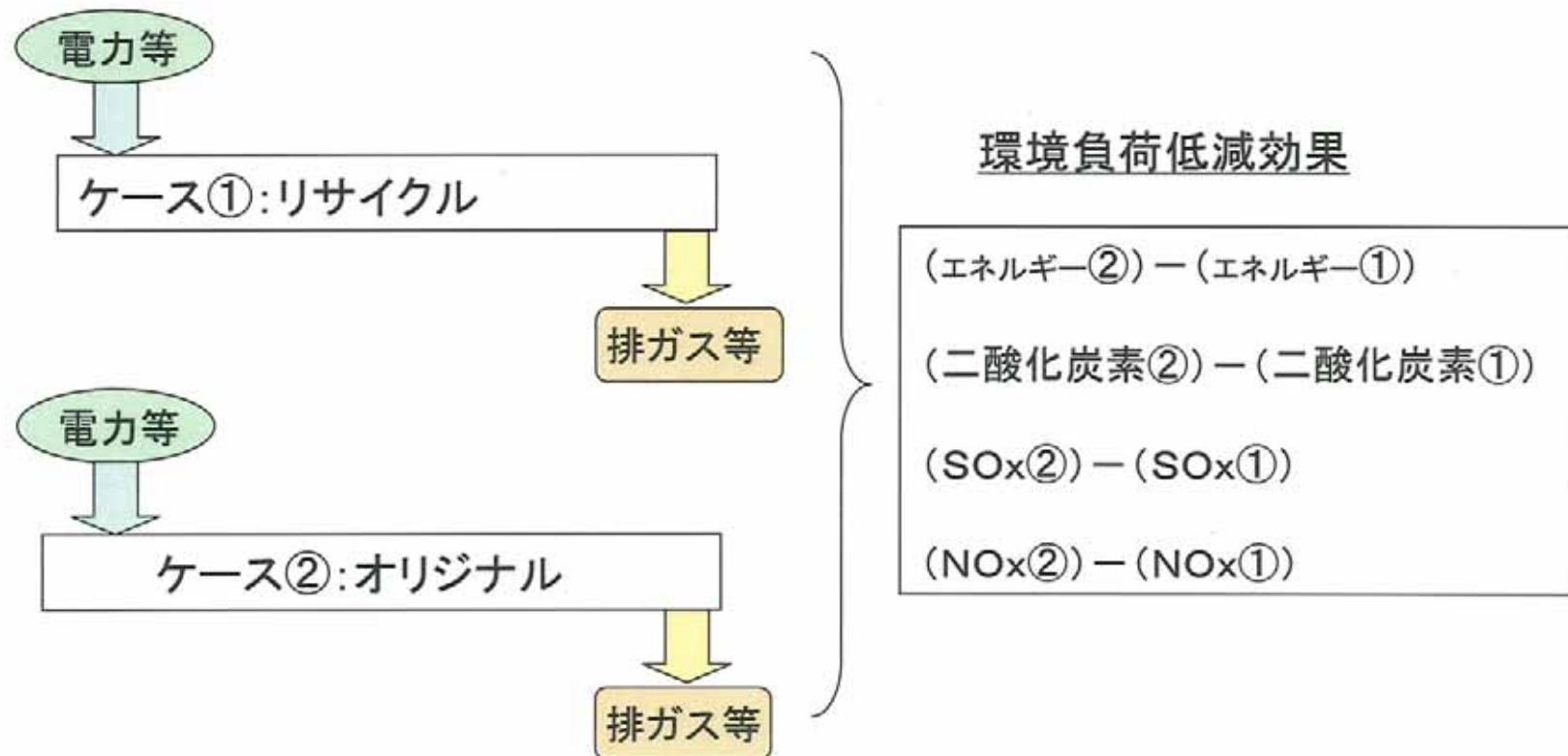


ケース②:新規材からの製品の製造(以下、オリジナルと記す)



2-2. 環境負荷低減効果

- ・先に述べた「リサイクルの効果」として、「環境負荷低減効果」を検討する。
- ・ここでは、エネルギー/二酸化炭素/SO_x/NO_xを取り上げ、
各々の量について、ケース②とケース①の差を「環境負荷低減効果」とする。



2-3. ケース①とケース②の比較にあたっての重要ポイント

※例1:材料リサイクルで、ワンウェイパレット(樹脂製代替)を製造する場合

- ・パレットの機能=ある量の荷物を運ぶ時の下敷き。
- ・パレットの単位=1枚。

【ケース①:リサイクル】

再商品化製品
(容リプラによる再生樹脂)

同等かどうかこの段階では?

【ケース②:オリジナル】

新規材
(バージン樹脂)

⇒ 再商品化製品利用製品

ワンウェイパレット=20kg/枚

同等の機能
(同数の荷物を運ぶ時の下敷き)

ワンウェイパレット=7.5kg/枚

ケース①, ②について、
全ての資材量や廃棄物発生量、
環境負荷データ等はこの樹脂
量比率を考慮して計算する。

重要ポイント

機能が同等のパレット
を得るために
必要な樹脂量が違う!